

2018年8月15日

投資者の皆様へ

T & Dアセットマネジメント株式会社

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額の下落について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額の下落につきまして、下記の通りご案内いたします。

今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額

ファンド名	2018年 8月13日 基準価額(円)	2018年 8月14日 基準価額(円)	騰落幅 (円)	騰落率 (%)
トルコリラコース(毎月分配型)	2,916	2,723	193	6.62
トルコリラコース(年2回決算型)	9,181	8,571	610	6.64

(騰落率については小数点第3位四捨五入)

- 文中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド
 指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◆ 市況情報

	2018 年 8 月 10 日	2018 年 8 月 13 日	騰落率 (%)
米ドル建てエマージング国債インデックス (JPモルガン EMBI グローバル・ディバースィ ファイド)	820.85	813.33	0.92

(小数点第 3 位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、8 月 10 日と 8 月 13 日と比較しています。

	2018 年 8 月 10 日	2018 年 8 月 13 日	騰落率 (%)
トルコリラ(対円レート)	17.38	16.02	7.82

(小数点第 3 位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、8 月 10 日と 8 月 13 日と比較しています。

為替レートはロンドン時間午後 4 時のレート(WM ロイターレート)。

出所:JP モルガン社、ブルームバーグ

エマージング債券市場の足許の市場動向

13 日のエマージング市場では、先週末の 10 日のトルコリラ急落の影響が他のエマージング諸国にも波及したことなどから、エマージング債券市場の代表的な指数である JP モルガン EMBI グローバル・ディバースィファイドは前日比で約 0.92% 下落しました。

為替市場(トルコリラ)の足許の市場動向

トルコ在住の米国人牧師拘束を巡り、米国とトルコ間の関係が急速に悪化したことをきっかけに、今月に入りトルコリラは対円で大幅に下落しています。10 日には、ECB(欧州中央銀行)がトルコリラ下落によるユーロ圏の銀行セクターへの影響について懸念しているとの報道や、トランプ米政権がトルコから輸入する鉄鋼・アルミニウムにかかる関税を 2 倍に引き上げると表明したことを受けて、トルコリラは急落しました。また、エルドアン大統領が演説でトルコ国民に対して保有する米ドルや金をトルコリラに両替するよう訴えたことなどを受け、外貨建て預金の封鎖や NATO(北大西洋条約機構)脱退リスクが意識されたことなども悪材料となりました。13 日には、トルコの銀行規制監督当局が、国内銀行による海外投資家との外貨とトルコリラとのスワップ取引等の総額を銀行の自己資本の 50% 以内に制限すると発表したことや、トルコ中央銀行が金融機関の流動性支援措置を発表したことなどから、トルコリラは一旦やや持ち直しの動きをみせましたが、投資家の不安を払拭するには至らず、引き続き下落しました。

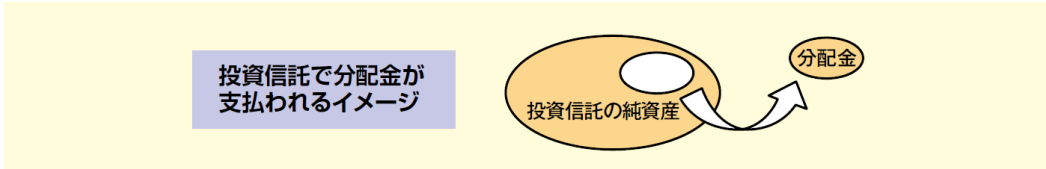
今後の見通し

エマージング諸国経済は、国・地域によりばらつきはあるものの、全体としては先進国を上回る成長が持続する見通しです。経済構造改革に取り組む国は経済の安定化が見込まれるほか、原油・資源価格の回復は資源国経済を支えています。これらファンダメンタルズの改善は、エマージング債券市場の下支え要因になると考えています。一方、利上げや通商政策など米国の政策をめぐる不透明感、中国経済の下振れ、地政学リスク、ブラジルの大統領選挙などの政治情勢は、エマージング債券市場の価格変動性をさらに高める要因になることも想定されます。こうした投資環境下、引き続き各国経済、リスク要因、需給環境を含む市場動向を注視しながら、ファンダメンタルズ重視の長期投資を推進していく方針です。

以上

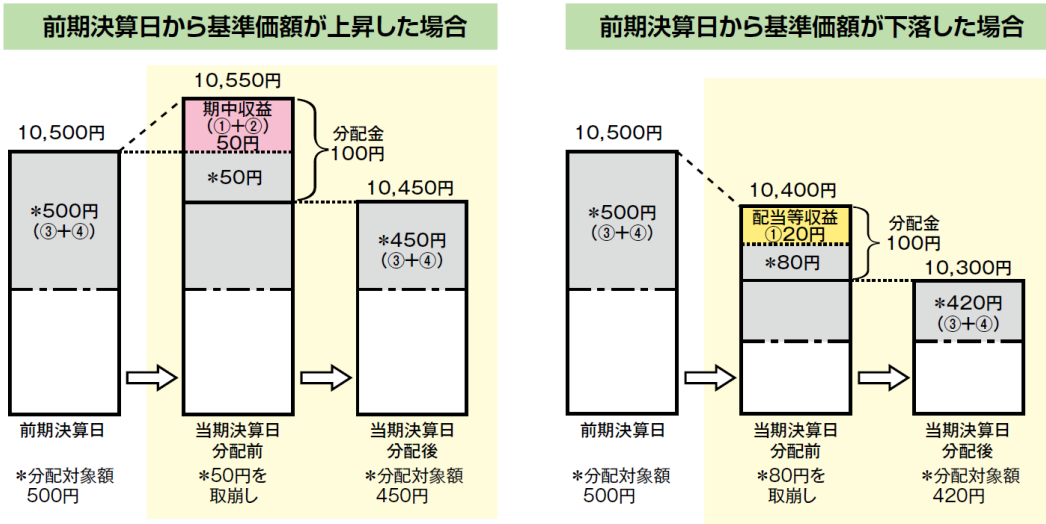
収益分配金に関する留意事項

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



●分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

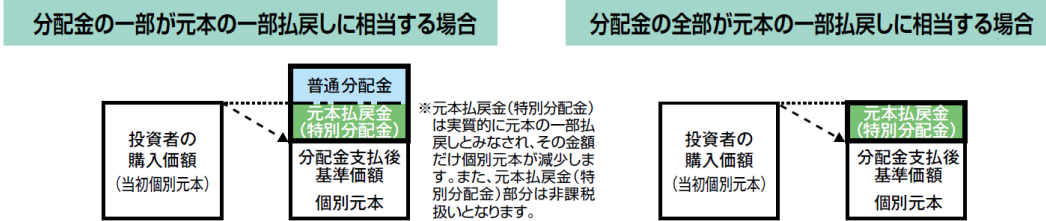
計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかった場合も同様です。



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

当資料はT & Dアセットマネジメントが投資者の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また投資信託の取得をご希望の場合は、下記のご留意事項を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。

ファンドのお申込みに際してのご留意事項

以下のリスクは、投資信託説明書(交付目論見書)に記載されているリスクを要約したものです。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクについて

<各ファンド(マネープールファンドを除く)>

「債券価格変動リスク」「カントリーリスク」「為替変動リスク」「金価格変動リスク」

<マネープールファンド>

「債券価格変動リスク」

基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

為替取引に関する留意点

ファンドにおける為替取引は、主に為替予約取引を活用しますが、通貨取引に対する規制等の理由から、当該通貨での為替予約取引を行うことが難しい一部の新興国通貨については、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用します。NDF取引を用いた為替取引では、通常の為替予約取引と比べ、為替市場、金利市場の影響により、NDFの取引価格から想定される金利(NDF想定金利)が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離する場合があります。その場合、為替取引によるプレミアムの減少や為替取引によるコストの発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与える場合があります。

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引とは

- ・投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行う取引をいいます。
- ・新興国通貨等への取引ニーズの高まりと共に、NDF取引が活用されるようになりました。

有価証券への投資や為替取引等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手先の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

